

最近、世間を騒がす事件には嘘のにおいが染みついている。

5月、神奈川県平塚市のアパートの一室から乳児2人を含む5人の遺体が見つかった。事件の真相は謎が多いが、娘に対する殺人罪で逮捕・起訴された岡本千鶴子被告(54)が「子供が病気で」「墓を買おうので」といった数々の嘘で知人や近隣に借金を繰り返してきたことは明らかになった。

特に出色の嘘は、我が子の「失踪事件」である。84年、岡本被告と当時の夫との間に生まれた利英ちゃん(当時6歳)が行方不明になつたと警察に訴え、テレビのワイドショーでもセンセーショナルに取り上げられた。しかし今回の事件でDNA鑑定の結果、遺体の一つは利英ちゃんだと断定されている。

そして6月。今年4月に水死した長女と仲良しだった近所の男児、米山豪志君を殺害しながら、地元の搜索に加わり、自宅で報道関係者を集めて会見を開いて身の潔白を訴えた、島山鈴香容疑者である。(66)の盗作疑惑が明らかになつた。

## 現代は虚言の時代か

偶然か、あるいはそんな時代なのか。試しに「虚言癖」とネットで引いてみると、「虚言癖」と悩まされる人の、なんと多いことだらう。虚言の時代、なのである。

# あなたとの隣の 虚言癖な人々

嘘で急場をしのぐ。ニイ工を張る。そんな経験は誰にでもある。だが、多くの人は虚実のボーダーラインを超えない。

虚言の彼岸はどうから始まるのか。

例えば、大手広告会社の研究員の男性(31)のケース。

若者の意識調査の一環で、都心のクラブシーンで名の知れた18歳の若者を面談している時だった。

若者の携帯電話が鳴った。

「ちょっと出てもいいですか?」

若者は男性に笑顔で丁寧にことわってから電話に出た。

「おー久しぶり。え? イベント

……。うん、ちょっと探してみるよ。後で電話する。じゃな

そして男性との会話を戻り、20分ほど経過したころ、

「ちょっと電話いいですか?」

再び丁寧にことわってから、誰かに電話をかけ始めた。

「もしもし、オレ。マジで探してみただけど、ないんだわ。誰か

なホント。また何でも言ってよ

電話を切ると、若者は再び何事

などと断定している。

5月末には、05年度の芸術選奨(美術部門)洋画家、和田義彦氏(66)の盗作疑惑が明らかになつた。

そして6月。今年4月に水死し

た長女と仲良しだった近所の男児、

米山豪志君を殺害しながら、地元

の搜索に加わり、自宅で報道関係者を集めて会見を開いて身の潔白を訴えた、島山鈴香容疑者である。

## 善惡の彼岸

もなかつたかのような表情で会話を続けようとしたが、男性は言葉を失つた。電話の相手を尋ねると、

「ああ、友達ですよ」

東北地方のデザイナー、クリコさん(37、仮名)は、虚言癖の知人に振り回された経験がある。

仕事の打ち上げで、取引先の広告会社の30代の男性は快調にしゃべりまくっていた。

告会社の30代の男性は快調にしゃべりまくっていた。

妻はオレ、彼女がいてさあ

妻子持ちだし、日頃はおどおどした気弱そうな男性だけに、場の注目は一気に男性に集まつた。

「彼女をマンションに囲つてゐる」と意氣揚々と語る男性に、ほかのメンバーが質問を浴びせた。

「どうやって知り合つたんだよ」

「カネとかどうしてんの?」

矢継ぎ早の質問に男性は表情を失い、黙つてしまつた。

以後も、男性の軽口はこういう嘘の連続だった。

「タレントの〇〇とオレ、高校時代の知り合いなんだぜ」

「ワインの並行輸入をネットでさばいてがっぽりもうけやつた」

「ああ、社会的な信頼関係や信頼を紡ぎだせるのはなぜでしょう? 他者との関係性、社会との関係性の維持が自分にとって重要だと知っているからです」

多くの人は、関係を大切にした

い相手にはそう簡単に嘘をつかない。ついたとしても、関係性を壊さないように隠し通すだろう。ところがいま、他者との恒常的な信頼関係にさしたる利益を見いださない傾向が現代人には確かにあつた。そこで、それこそが虚言の時代の本質だと、名越氏は言うのである。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言う。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

精神科医の名越康文氏は、虚言が頻出する時代の本質は、虚の量より関係性の寸断にある、と言つた。

## 文人愛用したツール

だが、嘘にも効用はある。

精神科医の武野俊弥氏は、著書「嘘を生きる人 妄想を生きる人」の中で、宗教団体「アーレフ」

に、そことは知らずに所属して修行を積むことで快復した統合失調症の患者の事例などを紹介し、虚構の果たす役割に触れている。

「何のための嘘か。また何のために真実を話すのか。嘘であれ真実であれ、破壊的な結果を導くかどうかは、その目的が左右するのでないでしょうか」

例えば、医療現場でのインフォームド・コンセント。患者の精神状態を考えずに乱暴に行われた場合、その真実の病名告知と、治療に意欲を与えるための嘘を交えた